

## SDGsとヒューマンサービス SDGs (Sustainable Development Goals) and Human Services

神奈川県立保健福祉大学 学長 中村 丁次

Teiji Nakamura, President of Kanagawa University of Human Services

2015年、国連本部で「持続可能な開発サミット」が開催された際、17項目からなる「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ：SDGs (Sustainable Development Goals)」が採択された。誰もが取り残されない持続可能な社会を作ることを目標にしている。最近では、毎日のように新聞や雑誌に、行政や企業等が貢献できる目標項目を個別に示している。差し当たって、当大学では「目標3：全ての人に健康と福祉を」と「目標4：質の高い教育をみんなに」が該当する。ターゲットは、「妊産婦、新生児、感染症等の死亡率や非感染性疾患や薬物乱用の減少」「全ての人々が技術教育・職業教育、さらに高等教育へ平等にアクセスできるようにする」等になる。

ところで、個々の目標を見ると、いずれも以前から各領域で検討されてきたことで、目新しいものはない。しかも、それぞれが困難な目標であり、それを一気にやろうというのは、「そもそもできっこない話」と、私は、最初に思った。しかし、よく考えると、SDGsの特徴は、人類が抱える根本的課題の全てをワンシートに示した事にあることに気が付いた。一瞬にして人類が抱える問題の全体像が解り、ある領域は他の領域に影響を与え、全体的に取り組むことが、個々の課題を解決するために必要だと言っているのである。例えば、栄養は、飢餓や健康に直接関係するが、栄養不良になると、知的能力や労働生産性は低下し、収入は減少して経済格差や貧困問題にも影響を与える。逆に、経済が改善されて教育レベルが向上すれば、栄養や健康の状態は改善する。地球上で、誰もが取り残されることなく健康で、幸福を感じながら文化的生活を送るには、特定の領域内での対策では解決しないことをSDGsは示している。となると、これはヒューマンサービスの理念と同じである。

阿部志郎名誉学長は、「ヒューマンサービスは、各々固有の機能と役割を果たしながら、専門間の調整を図り、包括的共同目標に向けて、連携と両立可能性を深め、誰をも排除することなく、利用者主体のサービスに統合し、実践性を可能にする理念・方法・システムを構築する」と述べている。私共は、国連がSDGsを発信する10年以上前から、既に同じ理念で教育、研究を行って来た。さては、国連がパクったのか？

21世紀も20年が過ぎ、思った以上に速いスピードで地球環境や既存の社会制度が壊れつつある。ヒューマンサービスを保健医療福祉の殻から解き放し、人類が抱える普遍的な問題を解決すべき基本理念とすべきなのかもしれない。

